



千葉大学医学部同窓会報 第113号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るの は な 同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
るの は な 同窓会報編集部
〒260 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るの は な 同窓会
電話 (043) 222-7171 内線5026



附属図書館 新亥鼻分館が開館

千葉大学附属図書館亥鼻分館の新庁舎の竣工記念式典は、昨年11月26日医学部記念講堂で挙行政され、同館は翌27日より全面開館となりました。

亥鼻分館は、昭和53年に医学部、同附属病院、看護学部および生物活性研究所(現質核微生物研究センター)の4部局共同利用の図書館として発足しました。しかし当初から施設設備は図書館として満足できるものではなく、その整備は急務となっていました。このたび、医

学部分館の頃から数えると20数年にして念願がようやくかなったこととなります。新館は、鉄筋コンクリート造り地下一階、地上3階建てで、延べ床面積は3785㎡、総工費は10億4千2百万円、現蔵書数は27万冊です。

新宮図書館は、医学・看護学・生命科学等の健康に関する科学の教育・研究を支援するとともに、医療や看護に関する情報を地域に発信し、卒後教育や生涯学習にも寄与することを目指しているライフサイエンスライブラリーです。また国際化への対応、展示・博物館機能を合わせ持つことも目指しています。

地階には開架閲覧室(和文雑誌)と今後10年間の蔵書に見合う収蔵力をもつ集密書架が配置され、1階には開架閲覧室(欧文雑誌)、情報検索コーナー、事務関係諸室が配置されています。2・3階には開架閲覧室(単行本、二次資料)、グループ閲覧室、ライブラリーホール等を配置し、さらに3階には卒後生涯教育の支援、

地域医療へのサービスエリアが設けられています。

設備関係では、閲覧室などには人感の照明と個別空調を設置するなど省エネルギー対策がほどこされています。照明・空調・窓の開閉状況は集中監視できるようになっています。

今後の課題は、開館後のサービス内容の充実ですが、学内外の情報ネットワークとの接続と情報機器の増加に対処し、また各種メディアを駆使する研究・教育支援設備の設置実現などがあります。



本学の学生は学生証、教職員は身分証明書を持参して下さい。学外の方は、身分を証明するもの(医師会員証等)、紹介状(他大学、病院、医師会等)の、国立大学図書館間共通閲覧証等をカウンターに提示し、

学外者受け付簿に記入の上入館して下さい。学外者で図書館駐車場を利用する場合は事務室で手続きのうえ鍵を借り下さい。詳細は図書館にお問い合わせ下さい。

内 容

利用案内
学外者受け付簿に記入の上入館して下さい。学外者で図書館駐車場を利用する場合は事務室で手続きのうえ鍵を借り下さい。詳細は図書館にお問い合わせ下さい。

千葉大学医学部同窓会名簿(一九九七年版) 発行の御案内

新名簿が平成8年11月発行されました。価格は送料込みで3千円です。名簿に関する問い合わせ、および申し込み済みの方で本名簿が未着の方は、同窓会事務局

最終講義・記念式典のご案内

一、最終講義
日時 平成9年2月4日(火) 午後2時30分
場所 医学部本館5階大講義室
演題 「ウイルスとの出会い」
講師 佐藤 研一 教授

二、記念式典(合同)
日時 平成9年3月15日(土) 午後2時00分
場所 医学部附属病院第一講堂
演題 「日本の医療 変えるべきもの・べからざるもの」
講師 藤田 真一 氏

祝8年度叙勲・表彰
表彰 平成8年 秋
勲五等双光旭日章 関 保(専23卒)
勲四等瑞宝章 鷺谷 健次(慈恵医21卒)

三、祝賀会
日時 平成9年3月15日(土) 午後5時00分
場所 医学部附属病院第一講堂
演題 「私の歩んだ小児外科医の道」
講師 解剖学第一教授 解剖学第一教授 嶋田 裕

四、祝賀会
日時 平成9年3月15日(土) 午後5時00分
場所 医学部附属病院第一講堂
演題 「私の歩んだ小児外科医の道」
講師 解剖学第一教授 解剖学第一教授 嶋田 裕

室秋田まで連絡をお願い申し上げます。なお、すでに御購入済みの名簿に乱丁がございましたら御連絡下さい。新しい名簿を送致します。

るの は な 随 想 (六)

経絡の話

本 間 三 郎 (昭21卒)

4代前の眼科の伊東弥恵治教授の呼出しを受けて、先々代の生理の鈴木正夫教授が現在の医学部4階にあった眼科教室に出掛けられた。しばらくして現在の病院の所にあつた生理の教室に戻されると、「経絡の実際を見てきましたよ」と興奮気味に語られた。長浜さんと云われる方が患者を連れて来られ、皮膚上を走る痛みを青色で辿ると、経絡の走行と一致すると云う。「君、経絡はあるんだね」と。あれから半世紀近い歳月がたった。そのとき強い衝撃を受けた私が今京都の郊外にある明治鍼灸大学大学院に勤めている。そしてこの春鍼灸学の博士を3名誕生させてその科長職を退く。

京都学派は鍼灸学に精通していると思う。その研究報告を見ると、長浜さんと同じようにして、経絡を観察していることがわかる。最近「鍼灸学の招待」という本をだされた高島文一さんにそのときの様子を詳しくお伺いしたいと思っている。「つば」を結ぶ経絡、陰

思いから半年以上かけて博士論文作成のための指針を作成した。その骨子は先端科学技術を駆使し、西洋医学との整合性を図り、鍼灸学独自の発展に寄与する。

具体的には、論文中に西洋医学との関わりを述べるとした。因みにこの指針に従い、定められた研究歴があつて、論文が提出されれば鍼灸学博士を受けることができる。ともあれ今回大学院博士課程を経て3名の博士論文の申請があり、その予備審査も終わった。平成9年早々に公開発表会があり、3月には学位授与の議決、中旬には晴れの学位授与式がある。

千葉大学医学部には東洋医学研究会があり、活発に活動している。その研究会は眼科の教室を母体として発展してきている。一時期東洋医学研究施設の医学部内設置が、内外からの要望もあり検討されたことがあったように思う。

故大平首相により北京に医学部相当の病院を寄贈することとなった。1980年私は第2回の使節団の一員として協議に参加するよう井出医学部長に要請された。戦時中から、わが大学はアジア特に中国との文化の交流による共栄を望み、

多くの先輩が中国に渡り医療に参加した。その伝統を受け継いで井出医学部長は率先して中国との交流の企画に参画された。

今回の協議の主な議題は病院の機構についてであった。中国側は2千年の伝統を誇る中国医学と西洋医学との結合を図ってくれという。この要請に対して私は次のような趣旨のことを答えた。120年程前にわが国の医学は東洋医学より西洋医学へと転換した。現在の日本の医学界を代表してこの会議に参加している私は、中国医学に対していささかの知識もない。そのわが国に中西医学の結合を期待されてもそれは無理であると思うと述べた。使節団の团长である外務省の課長に突然命じられたので、戸惑いもあったが、通訳の間に考えをまとめつつ発言した。要するに患者の訴えにより、経験や体験に基づいて築かれた治療を主とする東洋医学と、実在する物質を中心とする科学的に考える治療の西洋医学との間は、架橋できないものと古くから云われている。そこに私の発言の根拠はあった。

方から当時務局長であられた佐分利さんが、国立がんセンターの附属病院のような形態を考えていると紹介された。先方は西洋医学専用のベットは二百床でよいとし、他は中西医学の結合した医療機構であることを望んでいた。しかしわが国が東洋医学を医学として奉じ、今も東洋医学に親近感を持っているとは云え、直ちに中西医学を結合したような機構の病院を企画し、それを作り得るものではない。われらの使節団の協議はこの本質を定めることなく終わってしまった。引続き井出医学部長は第3回、第4回の使節団にわが医学部の教授を推薦された。そして北京市に医学部相当の病院ができあがり、中日友好病院と名付けられた。数年前の開院式には鈴木元首相が参列された。井出元学長は現在もその名誉顧問として中国との医学交流に努めておられる。

ただでさ上がった中日友好病院の機構をみると中西医学の結合された病院とはなっていないように思われる。中西医学の医療が同じ建物のなかに、単に混在しており、患者の選択によりどちらかの医療を受けるという。このような機構を中国側がわが国に要請したものでなかったように思えてならない。ひるがえって明治鍼灸大学を見ると、そこに西洋医学に属する附属病院があり、京都府立医大の医師が勤務している。鍼灸大学にお祝いごとがあるとき、来賓として府立医大の学長始め関係者が招待されている。他大学出身の医学者は私のほか4・5名である。病院のなかに鍼灸専門の立派な外来があるが、医療の主体は西洋医学の体制である。このことはわが国の医療体制によっているからである。鍼灸の国家試験には西洋医学と東洋医学の2つの系統の問題がだされている。わが国ではあくまでも西洋医学が医学であつて東洋医学はその周辺の医療である。しかし中西医学の結

合は両医学の融合であつて、中日友好病院が寄贈されるのを期にわが国に要請されたものと思えてならない。鍼による鎮痛効果はオピオイドのシナプスにおける抑制効果であるという客観的な研究も得られたし、つばや経絡についてもその実在についての研究が進み、その結果これまでの「証」だとか「陰陽」とかの定義が本質的に改められるのではなからうか。そのような予見は、最近の医療技術の進歩による脳研究の画期的な成果に起因し、精神や心と脳との関わりに科学の手が及びかけているからである。わが国も二十一世紀が脳研究の時代であるとして、多額の科学研究費が投入されてきている。

(千葉大学名誉教授)

す。即ち、従前通りに各ブロックに大別し、各々のブロック内を住所別から五十音別に配列を替え、又、賛助会員は各ブロック末に五十音順に別掲載とする等が一案として考えられます。

今後共、よろしくご理解ご協力をお願い致します。

千葉県のはな会々長 渡辺 武

るの は な 随想 (七)

萬巻の書は

萩原 彌四郎(昭23卒)

矢作の学舎

いささか旧いところから始めるが、私が初めて千葉に来た昭和19年の秋には駅はいまの市民会館の所であり、大病院行きのバスの終点の大病院はいまの医学部本館であった。基礎教室はそこから病院の横をまわり、連絡道路を渡った先の、もと矢作町(村?)といわれた地区にあった。

連絡道路を渡り切ってすぐ右側に大学会館、左側に本館、講堂、書庫があり、本館の角を左にまがると、

樗の並木を中心にした直線道路を挟むようにして基礎の建物が並んでいた。

道の西側は本館に続いて細菌学・衛生学の教室、薬理学・生理学・医化学の教室の順に、東側は門衛所から少し離れて法医学、病理学(2講座)、解剖学(3講座)の順に教室が並んでいた。すべて木造平屋建てで大正ロマンの漂うような学舎の雰囲気であった。

東側の教室の裏は民地で樹木が茂っており、折々は栗鼠などもちらりと姿を見

せるほど静かな学園環境であったし、連絡道路の北側は人家も少なく、春になると菜の花の黄と麦の青とに彩られる牧歌的な眺めが広がっていた。ただし、戦時下、それも敗色濃い頃であったので、修業年限が短縮されておき、その分授業の密度は濃かった。例えば解剖実習は1月4日から開始されている。そして4月には

新入生が入ってきて、私たちは半年で2年生になってしまった。

基礎教室炎上

6月には勤労奉仕とかで農村の田植えの手伝いをやらされた。それが終わると休む暇もなく授業が再開された。授業再開の前日、7月6日に私は浦和の家から下宿に蚊帳を運んだ。下宿は新宿町にあった。その夜千葉はB29大編隊による激しい空襲を受けた。

真夜中近かったと思う。

本物の空襲であることがわかった。私は、下宿を飛び出して大学に向かった。線路を越え、どうい道順をたどったのか定かではないが、頭上か

ら焼夷弾の落下するヒューヒューという不気味な音が聞こえ、あちこちに火の手が上がっているのが見えた。大学の構内に入った時にはもう7月7日の朝が来ており、基礎教室はあらかた燃えつくしていた。だが、法医学教室、本館、講堂、書庫は幸い類焼を免れた。また、病院の方は屋上や中庭には被弾したが被害はほとんどなかった。

(なお、当時の大病院の前の広場の西側に、旧病院の建物があった、その頃兵隊がいたりしたためか、これも7日の日に全焼した。新旧と紛らわしくなるので、この稿では以後この場所を西地区と呼ぶことにする。)

この空襲による千葉市の被害は甚大で、建物の約70%、6904戸が灰燼に帰し、1204人の死傷者が出たというところである。県庁、市役所は無事であったが、連絡道路から眺める南側の市街はほとんどすべて焼失し、はるか向こうに蘇我駅が望まれる程であった。本のゆくえ

さて書庫のことである。

大正15年にできたというこの書庫は、いかにも小規模で、閲覧室も無く、2階のカウンターで呼び鈴を鳴らすと、図書受付の人が出て

きて本が借りられるというふうな仕掛けであった。それにしても書庫が残った事は、前身学校時代から受継いできた貴重な図書が守られたわけで、そのこと自体は良かったのだが、焼け残ったことで、これらの図書がその後かなり損をすることになる。

まず、焼失した基礎教室の復興である。昭和22年、焼け跡に解剖実習室、各科共通実験室ができたのを皮切りに、24年には基礎各教室の旧の3分の2を復旧したが、工事はそこで打ち切られた。なお、この年、新制千葉大学が発足し、医学部図書館は千葉大学附属図書館医学部分館と名前を改めたが、書庫は依然として元の儘であった。

基礎教室復旧工事の中止は、昭和25年ころから西地区の焼け跡に、新しく本格的な基礎教室を築造することが計画されたためである。このときは図書館を新営しようという話は出なかった。基礎医学新館と呼ばれるこの建物は、細長い口の字型で地下1階地上4階、延坪5240坪が予定されていた。29年に一部落成し、解剖学教室の一部が移転した。その後も部分的に落成・移転が行われてきたが、文部

省の方針もあり、34年に一部切り捨てて完成ということになり、全基礎教室の移転が完了した。ただし、予定のほぼ3分の2にあたる3528坪であったので、図書館と書庫を除き、一応配分して当分の間の窮をしのがざるを得ないこととなった。基礎医学新館の形はL字型で終わりとなった。

西地区にはまだ空きがある。基礎医学新館と大病院との間に図書館ができれば、研究・教育に便利であり図書館新営には絶好の時と思われた。しかし、まだ待たされるのである。

昭和35年、千葉大学医学部は創立85周年記念式典を挙行したが、その記念事業の一つとして記念講堂の建設があった。基礎医学新館の北側にユニークな記念講堂が落成したのは39年秋であった。

昭和41年、千葉大学評議會は矢作・亥鼻地区統合整備計画を決定した。その概要は矢作地区に新病院を建設し、現大病院は基礎・臨床全講座の研究室として利用するというものであった。翌年暮、文部省内に「千葉大学附属病院建設計画準備会」が設置され、ここに至って図書館の新館が、やっと日の目を見ることと

なつた。

一歩前進

初めは管理部門、開架閲覧室、書庫等完備した図書館建設計画であり、それにしたがって建築が進められたが、昭和46年、千葉大学医学部分館第一期工事落成・開館をもって工事打ち切りとなる。当初の計画とは程遠いもので、ダンボールに積めたおびただしい書籍を配架することができず、やむなく基礎医学新館の地下に預かってもらう始末であった。

その後、48年に新病院起工式、50年に看護学部設置、翌年移転した基礎教室の後に見えらるよう、とても嬉しく思う。祝賀会の席で私は、旧制一高の寮歌の一節

秋の入日はうたふべく萬巻の書は庫にあり

を胸に繰り返していた。(一部記憶違いの所もあるかと思いますが、詳しく調べている時間的余裕がないまま書きました。ご叱正いただければ幸いです。)

(千葉大学名誉教授)

「千葉大学医学部 八十五年史」

「千葉大学医学部 百周年記念誌」

右の記念誌に残部がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは事務局(内線五〇二六)にお問い合わせ下さい。

お問い合せ下さい。

て、私はこれまでの図書の苦難の道を知り、一日も早く図書をダンボールから解放しなければならぬと強く感じた。それから18年。そして今

平成8年11月26日新しい亥鼻分館の竣工記念式典が行われた。このことについては「るの は な」の別の所に詳しく書かれると思うので述べないが、暗やみの中から出てきた図書たちの笑顔が見えるようで、とても嬉しく思う。祝賀会の席で私は、旧制一高の寮歌の一節

秋の入日はうたふべく萬巻の書は庫にあり

を胸に繰り返していた。(一部記憶違いの所もあるかと思いますが、詳しく調べている時間的余裕がないまま書きました。ご叱正いただければ幸いです。)

(千葉大学名誉教授)

「千葉大学医学部 八十五年史」

「千葉大学医学部 百周年記念誌」

右の記念誌に残部がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは事務局(内線五〇二六)にお問い合わせ下さい。

お問い合せ下さい。

千葉大学名誉教授

北村 武先生を偲んで

今野 昭義 (昭36卒)



北村 武先生は平成8年11月9日午前7時57分、千葉大学医学部附属病院にて前立腺癌のため85歳の生涯を閉じられました。

先生は昭和13年千葉医科大学を卒業後、耳鼻咽喉科学教室に入局され、昭和24年に助教、昭和26年には39歳の若さで教授に昇任されました。

以来昭和52年に定年退官されるまでの26年の永きにわたって千葉大学医学部耳鼻咽喉科学教室を主宰されました。退官後、千葉大学名誉教授となり、また昭和58年から昭和62年まで東海大学医学部委嘱教授を務められました。

この間、学内にあっては昭和30年、千葉大学附属病院院長を務め、また学外にあっては医師国家試験審議会委員、医師国家試験委員、医学視学委員、ユネスコ小委員会委員など各省庁委員を

歴任し、行政に寄与するとともに、第8期、第9期、第10期日本学術会議会員、第10期7部会副部長として学術と教育の振興につくしました。

多岐にわたる先生の御研究の中で唾液腺疾患の基礎と臨床に関する業績は国内外で高く評価されました。また鼻副鼻腔疾患の病態解明と治療の開発、耳鼻咽喉科領域におけるアレルギー、免疫疾患の分野でも幾多の研究を残されました。さらに頭頸部腫瘍、とくに喉頭

部癌に対する喉頭部分切除術の確立と機能再建術の開発に力を注がれました。また当時、未開拓であった頭頸部腫瘍の診断、治療大系の確立、普及のために昭和35年、広く耳鼻咽喉科、口腔外科、放射線科の専門医

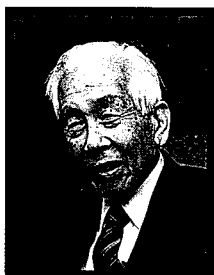
と呼びかけて数名の同志とともに日本頭頸部腫瘍研究会を設立し、現在の日本頭頸部腫瘍学会に発展させ、本邦における頭頸部癌治療成績の改善と治療法の普及に努力してまいりました。

先生は昭和41年に第67回日本耳鼻咽喉科学会総会、昭和49年に第13回日本癌治療学会総会など多くの学会を主宰され、同時に日本耳鼻咽喉科学会を始めとする多数の学会の理事、評議員、会長を歴任され、医学、医療の進歩、発展および学会の運営強化に尽力いたしました。

千葉大学元学長、名誉教授

川喜田愛郎先生を偲ぶ

清水 文七 (昭33卒)



昭和58年、それまでの数々の功績に対して政府から勲二等瑞宝章を、また平成8年11月9日に正四位に叙せられました。

千葉大学医学部教授在任中の門下生は100人に及び、先生に学問、教育に対するひたむきな情熱と秀でた医療で多数の優れた人材を医療の第一線に送り出す一方で、今日の耳鼻咽喉科学会の指導者を輩出されました。

先生は学問、医療に対してはいつも真摯、峻厳でありましたが、日常生活においては慈父の如く溢れる愛情で周囲の者を包み、多くの人々に敬愛されてまいりました。

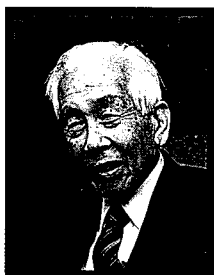
先生の在りし日の面影を偲びつつ、謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。
(耳鼻咽喉科学講座教授)



千葉大学元学長、名誉教授

川喜田愛郎先生を偲ぶ

清水 文七 (昭33卒)



川喜田愛郎先生には平成8年12月6日、東京都新宿区下落合のご自宅にて87歳の生涯を閉じられました。

先生は昭和7年東京帝国大学医学部を卒業後、東京大学伝染病研究所に入所、高木逸磨教授の下で病原細菌学の研鑽に励まれました。やがて、先生は新しく生まれたウイルス学に傾倒され、日本脳炎ウイルスの研究に着手されます。

昭和24年千葉医科大学細菌学教室の教授に着任され、以降昭和43年千葉大学学長になられるまで19年間にわたって教室を主宰されました。その間、WHOの要請をうけてトラコマの病原体の技術専門家として1年4か月間エジプトに出張されました。

川喜田先生は科学者として大事な時期を太平洋戦争という極めて困難な状況下で実験に専念され、「日本脳

炎ウイルスのガラス器内培養」という画期的な業績をあげて高い評価を受けました。これはウイルス学に組織培養法を導入することによって可能となったもので先生の先見性の表れでありました。この方法論はやがて教室にしっかりと根付いて今日に脈動を続けております。

先生は早くからウイルス学会の旗手として指導的な立場に立たれ、会長をつとめるなど学術ならびに運営面で多大な貢献をなされたことは枚挙に暇がありませんが、また、物事の道理を重んじる論客でもありました。

あの物静かに言葉を選びながらまるで書く時のように話を進められるお姿を思い出される方が多いことでしょう。言葉の意味などはその根源から理路整然と説き明かすのでした。長らく混乱して使われていた用語を統一して「ウイルス」としたのはその一例であります。

先生は病因論としての感染・免疫に興味をもたれて執筆されていましたが、やがて基礎医学の広い分野に

ついて発言されるようになり、さらに医学全般の史的展開に強い関心を示され、同時に活発な執筆活動を繰り広げられました。「生物と無生物の間」、「感染論」、「バスターール」、「病気とは何か」など多数出版されました。昭和44年学園紛争の責任をとって学長を辞任されてから憑かれたように思索と執筆に専念されました。退官後6年の歳月を費やして完成した「近代医学の史的基盤」によって昭和54年学士院賞が授与されました。この外、言葉を大事にした先生が、草の根をかき分けて調べ上げ、徹底的にむだな記述を省いて書き上げたこの作品は医学を学ぶ人々への貴重な遺産と言えましよう。

さらに晩年、先生はますます「人」を愛するようになられました。その背景にはキリスト者としての信仰もあると考えられます。著書「生命・医学・信仰」や「医学史と数学史の対話」(中公新書、平成4年最後の単行書)の中で、病いは、癒しとは何かについて試験に立たされている今日の医学者の立場から鋭く省察を加えています。80歳をずっと超えた先生が身をのり出して脳死、臓器移植、

生命の尊厳について理性的対応がいかに必要であるかを史的観点から熱っぽく説いているのです。

これら著作の傍ら、大学セミナーハウス、野間科学医学研究資料館、北里大学医学部倫理委員会などの委員や役員として活躍されました。これからの時代になくてはならない碩学を失ってしまった。

突然、脳出血に倒れ、話すことが不自由となられたの3年7か月の闘病生活は先生にとって大層辛かったと思われそうですが、ご家族のあたたかい愛情と信仰によって平安が保たれていたということは同門者の救いでもありました。死の数日前までリハビリをかねてワープロに向かっていたと聞いています。

先生がよく口にされていた「病める人をこそ癒せ」とのメッセージを忘れることはできません。

(微生物学第1講座教授)

◇ご注意◇

文教出版社 千葉大学職業分野別総合名鑑と称し、氏名、勤務先等を記入するアンケートが郵送されております。本同窓会とは何ら関係ありませんので、ご注意下さい。

クラス会

いざよい会

(昭和16年12月卒)

例年5月開催の例会を都合により9月7日(土)14時17時貸切りで、原宿のレストラン・ベルガで催しました。数年来土曜日の午後同じ場所なので、ゆっくり歓談出来ると夫人方にも好評。今年は御主人(括弧内)を亡くされた、青木三三子(芳郎)、石橋昭子(修)、大角キヨノ(總司)、長女大角あき子代理出席)、継芳子(真)、三宅延子(一郎)、山口寿(寛人)の6名。單身出席、大曾根俊士、清川素道、工藤博爾、斎藤美田中敬明、長尾透、北篠龍彦、前田正治、村越康一、矢口明、横江康夫の11名。夫婦出席は、中島博太郎、箕山哲、越川英夫の6名、計23名と近來にない盛況で、特に諸氏の御主人にまつわるエピソードが次々と話されるので、夫人達は非常に感銘深かった様だ。例年皆出席の方は勿論、今年初めて出席された夫人達も、是非来年も出席したいという嬉しい反響もあり、幹事としては何よりのご褒美で、

来年も是非同趣向で開きたいと思っている。因みに卒業時79名の会員も現在31名と淋しくなっていました。

(幹事・越川英夫)



もぐら会

(昭和23年卒)

古稀を過ぎ早や2年、わが「もぐら会」は平成8年9月7日、東京ステーションホテル地下、「さつき」で催された。集いしもの26名、会場が至便である割にはやや少ない憾もあるも、互いに手を握り肩を叩いて久闊を叙し合った。

前田、松山両幹事司会のもと、先ずは本年2月に逝去の熱田英雄君、3年前に物故された千葉哲郎君の冥福を祈って黙祷。ついで、

伊東より千葉大医学部長、病院長、教授交代の報告があったが、知る名も少なく、隔世の思いを新たにす。吉岡君よりは、お蔭様での潤沢な会計報告があり、お互いの健康を祝つての乾杯に続いて懇親会が和やかに始まる。この中、初参加の広瀬輝夫君(在米)、遠路からの村井勢君より挨拶があり、三々五々の懇談の輪の中では、幹事作成の欠席者の近況コメント一覽を見つ、病氣療養中の級友の早期回復を祈るや切なるものがあつた。それにつけても、退官、世代交替、中には専ら趣味を、既に隠居など、人生最後の交換期にある吾等にあつて、かねてより本会の名簿整理に盡力している堀江君より、谷毅君をはじめ途中転出の諸君も含めて住所不明者を無くすための情報提供を望むアピールがあり、一同協力を約した。来年度は、吉田(充)、大津両君に幹事を依頼し、本年と同所で行うこととした。再来年は卒業後50周年に当たるので、吉田亮君を中心に在籍者により、変貌著しい千葉で行うことと定めた。何れも多数の参加を勧誘すべく互いに申し合わせた。

会は和氣藹々の中にも、



物に傾き、他を顧みぬ近頃の世相や、政治家、官僚の現状に憤慨し、一方、人は自ら得るより他に与えることに喜びはより大きいことを知る、など殊勝な思いを述べ合うこともあり、談論風発、時の過ぐるを知らぬ様子であつた。しかし、時に限りがあり、次回の再会を約して散会した。

出席者氏名、吉田亮、吉田充、吉岡宏三、村井勢、松山茂、松下幸二、前田裕、堀江昌平、藤井日出男、広瀬輝夫、平岡眞、林易、野坂謙二、奈良四郎、中島博徳、戸沢澄、多賀谷謙、杉山静也、斎藤嘉一、黒須吉夫、木村滋、大津饒、岩間定夫、板垣修造、伊東和人、有賀光(文責・伊東和人)

43卒有志

ニューヨーククラス会

卒業後、25周年のクラス会にNYから参加したリン、ヨン夫妻が「日本でのクラス会は一晩だけで終わってしまい寂しい限り。次は是非NYでクラス会をやろう。そうすれば3晩位クラス会々々場を用意するから都合に合せて出席すれば良い。」との提案があり、酒の勢いも手伝つて「よしやろう」という事になり、それから同級生の参加意思と都合の良い時期等のアンケート調査を数回行い、漸く3年目に実現したのである。そしてついに平成8年8月18日昼頃、第一陣(盛)クラス会幹事長、北原夫妻、和泉(旧姓丸山)夫妻、松清夫妻、飯田夫妻がJ・F・ケネディ空港に無事到着し、エリザベス女王や昭和天皇も宿泊したNYでも超一流のWaldorf Astoria Hotelにチェックイン。飯田の娘もバンクーバーより合流。夕食はリン、ヨン夫妻の招待で四川飯店のWelcome Party。同伴した家族も旧知の間柄のように打ち解け、和氣あいあいと学生時代のコンパの雰囲気になり長旅の疲れも一気に取れてしまいました。

2日目はワシントン観光、3日目はボストン観光とナイアガラ滝観光に分かれ、ルック・アメリカ一日観光に参加したので日本人ガイドの解説付きで十分に楽しむ事が出来ました。特に4日目のNY市内観光で基盤の目に区切られたNYの道路を十分に理解したので、その後は一人歩きも出来るようになりました。

4日目の夜は第2陣の藤塚夫妻、堀川夫妻、竜と母も合流しリン、ヨン宅で第1回目のクラス会。娘さん二人も手伝ってくれて庭でのバーベキューパーティー。NYでの再会を祝し乾杯に続き乾杯と美味しい肉とロブスターで大いに盛り上がり、二次会は家の中に移り、ヨン君が千葉大学時代に買っていた30年物のワインを開け再び全員で乾杯。ヨンは最近医者より芸術家として大活躍中で3冊の画集を出版し、その絵はオークションで1万ドル以上の値がついているとの事。5日目はゴルフ組はシィダー・ブルックCCで、深いラフと早いグリーンに悩まされ、美術館巡り組はメトロポリタン美術館、グッ



ゲンハイム美術館等で数々の名作を目のあたりにして感動しました。夜はブロードウェイでのサウンド・オブ・ミュージックで有名なJ・アンドリュースのVictor Victoriaを我々なりに正装して観劇。歌声の素晴らしさ、舞台装置の美しさ、物語(ホモ・コメディ)のテンポの良さにさすが本場のミュージカルと感激。舞台がはねた後、第2回目の深夜のクラス会をケネディ空港の近くの台湾料理店で海鮮料理とワインを大いに食べ飲み、ここがNYであることも忘れドンチャン騒ぎ。ホテルに帰り着いたのはAM3時近くでした。6日目は全員自由行動。NY市内でおみやげを買つ(6面へ続く)

昭和46年卒 クラス会

平成8年8月28日、昭和46年卒の卒後25周年クラス会が保阪善昭君の昭和大学医学部形成外科教授就任祝いを兼ね帝国ホテルにて開催された。前回の卒後20周年記念クラス会以来5年振りの再会であった。卒後25年も経つと多くの級友が千葉市を遠く離れていることから、今回は交通の便利な東京で開催することにした。クラス会に先立って集合写真撮影。集合写真に間に合わなかった級友が数人いたが、出席者54名を数え、幹事の松寄君の司会により会が進められた。

桑田次男先生、米澤利英先生、大谷克己先生の3人(5面より続く)たり、医学書を買いに行ったり、ニュージャーゾ州のアウトレット村に行ったり、一人で地下鉄とフェリーを乗り継いで自由の女神を3時間もかけて登ったり、友達に会いに行ったりしてNY最後の一日を各々楽しみました。その夜の第3回目のクラス会ではハドソン川からNYの夜景を楽しむ3時間のナイトクルージング。

の恩師の方から今では笑って過ごせる我々の学生時代の思い出話をいただいた。当時の先生方は現在の我々とほぼ同じ年代であったことを知り、改めて年月の過ぎ行く速さを実感した。

しばし、食事、歓談の後、保阪君より教授就任の挨拶があった。46年卒初の臨床系教授であり、今後の活躍が出席者全員より期待された。その後近況報告に移ったが、残念ながら出席者全員にまでマイクがまわる時間がなかった。

その後、ほぼ全員が17階のレインボート・ラウンジでの二次会に移動し、時の経つのを忘れて近況報告や学生時代の思い出に再び花が咲き、とりあえず散会したのは千葉方面の最終電車に間に合う時間であった。



次回は5年後の卒後30周年記念とすることとし、女性グループに幹事をお願いした。新しい企画を期待したい。

(幹事：中島祥夫、保阪善昭、松寄理)

皆それなりにオシャレをしてPM7時に船に乗り込みました(写真)。デッキからみる夜空に浮かぶマンハッタン島の高層ビルは真に摩天楼と呼ぶに相応しく見えていたうちに食事の時間となり、フルコースのディナーを少し気取って食べ終わる頃、ライトアップされた自由の女神が腕を伸ばせば触れる位の近さに迫っていました。通り雨に濡れな

昭和61年卒 クラス会



去る平成8年6月29日、千葉市中央のホテルサンガーデン千葉において、昭和61年卒の同窓会が行われました。卒業して10年を経過し、初めての同窓会とあって留学中や遠方在住の者を除くと半数近い45名の出席を数えました。10年前とは随分様変わりした千葉の街とは違い、学生時代と全くと言ってよいほど変わっていない者が多く、10年の歳月は瞬時に埋まってしまいました。居酒屋での合同二次会以後は、いつの日かの再会を期しての散会となり、10年振りの再会ではアツと言う間の出来事として記憶の一部となっていました。

(文責：飯田)

第21回 るのな美術展開催

平成8年7月9日から15日まで、銀座集雅堂ギャラリーで開催されました。本年度の出品者は医学部学生2名をふくめて21名、卒業年次は昭和12年から昭和42年にわたっておりです。作品は油彩を主流として、水彩、パステル、書等34点で、多数の来会者から好評をえ



第21回るのな美術展会員出品作品

1996. 7. 9～7. 15 集雅堂ギャラリー 銀座 東京

- | | |
|--------------|------------------------------------|
| 酒井 昭 (昭42) | 公園の結婚式 10M 油彩 |
| 長谷川 雄 (昭35) | 風景 20F 油彩 |
| 島田 哲男 (昭41) | ①女性像8号 ②女性像8号 油彩 |
| 石谷 治彦 (昭24) | ①婦人像8号 ②花10号 水彩 |
| 大谷 大木 (昭38) | ①新緑の筑波山ろく F10号 ②夏の安達良山 P8 油彩 |
| 細井 四郎 (昭12) | 聖マリアンヌ寺院、パリ 8号 油彩 |
| 山川 晋力 (昭24) | ①終坊 F10 ②花 F4 油彩 |
| 今井 通光 (昭22) | ①雪の永平寺 6号 ②知床峠にて 6号 油彩 |
| 井上 光正 (昭24) | ①花 10号 ②津軽リンゴ園 10号 水彩 |
| 大村 長正 (昭19) | ①赤浅間 ②山荘の庭 10号 油彩 |
| 斎藤 英一 (昭16) | ①風景 10号 ②風景 10号 油彩 |
| 藤尾 透 (昭16) | ①湖畔の秋 10号 ②白い花 8号 洋画 |
| 山崎 英明 (昭22) | 山村 F10号 油彩 |
| 斎藤 宗寿 (昭16) | ①青いボスター 8号 ②胸像とマイク 10号 油彩 |
| 加瀬 幸雄 (昭22) | ①ばら 8号 ②ばら 4号 油彩 |
| 山口 幸児 (昭31) | 秋菊 半切 <装幀> 書 |
| 野村 真利子 (昭36) | ①谷川温泉 6号 ②風景 6号 油彩 |
| 川村 孝三 (昭36) | ①人物 10号 水彩 |
| 渡辺 正人 (学部5) | 出漁 F12 油彩 |
| 鈴木 不品 (学部5) | 千葉刑務所付近の風景 F10 油彩 |
| 斎藤 篤 (学部5) | 伊藤行男・神作憲司・内田成和・宮下久夫・関田 (杉野) 恭子 順不同 |

るのな美術展事務所 〒169 東京都新宿区高田馬場1-25-29 ☎03-3200-0078 FAX3200-0253 石谷治彦 (昭24年)

において開催、34年卒業以来、治郎さんの新規出品が予定されており、会は伝統的に極めて自由な雰囲気運営されており、末永い発展を目指しています。会員一同、同窓各位多数の参加を求めていますので、ご連絡くださるようお願い申し上げます。

「半世紀遡ってから」 千葉医科大学昭和21年卒 クラス会記念誌

昭和21年卒業生一同は、昨年卒後50周年を迎え、このほどA5版166頁の記念誌を作成、同窓会に寄贈されました。

入学、同21年9月卒業で、戦争の真只中を本学で過ごした。また戦後の学制改革によりインタンと第1回目の医師国家試験を受けるなど、まさに時代に翻弄された学年である。

千葉医科大学昭和21年卒クラス会は昭和17年10月33名の寄稿からなり、真摯に努力してきた人生の貴重な記録が述べられていて興味深い。(嶋田裕・昭35卒・編集委員) 本誌ご希望の方は左記にお申込み下さい。 〒102 東京都中央区三番町三一二 三番町コンド四〇一 新井正

「第1回安房精神科のな会」

去る平成8年8月5日、館山市内の割烹「みのや」に於いて「第1回安房精神科のな会」が開催された。当日は三芳病院名誉院長の佐藤三(昭21卒)が残念ながら欠席したが、今回初めて同門会を催せる事が出来、喜ばしいかぎりである。周知のようにこの数十年で精神医療そのものが大きく変化しているが、当地区では志あれどそれに見合うだけのマンパワーが不足し

ており、悩みの種となっていた。この度、三芳病院に福井院長、渡辺医師部長の両氏を迎え、我々同門だけでも地域内の常勤精神科医は十名を数えるに至り、診療形態も単科精神病院、一般病院精神科、クリニックと幅ができてきた。しかし日本、特に「周辺地域社会」には今尚、精神障害者に対する偏見が根強く残っており、精神医療の発展課題は山積みされたままであ

る。現在、そして将来における地元住民のメンタルヘルスに対し我々に課せられた使命は果てしなく大きい。が、今後は我々のみならず他病院とも更に連携を深め、「南房総の精神医療の発展に寄与すべく」同力を合わせよう！」と意気上がり、盛会のうちに「みのや」を後にした。その後は1軒また1軒と経る毎に、1人また1人と館山の街に人影が消えていった。写真左より植木良裕(昭53卒)、宮城島大(平6卒)、福井進(昭36卒)、伊藤寿彦



(富山医業平2卒)、関谷信平(昭38卒)、市来真彦(平4卒)、渡辺啓治(昭61卒)。(敬称略、文責・市来真彦)

埼玉のな同窓会

約260名の会員を擁する埼玉支部は県南の浦和市と大宮市を根拠地としている関係上、毎年の総会はこの2市で交替に開催されて来たが、県内各地に点在する会員の出席の便を考慮し、10年程前から北部・東部もこれに加えた輪番制になり、本年度は北部の熊谷市での4回目を迎えた。

8月25日の日曜日、今年もほぼ定宿となったホテルサンルート熊谷に50名の会員が出席した。講師には附属病院長新美仁男先生と第

一内科教授税所宏光の両先生を迎え、酷暑にもかかわらず盛会であった。

熊谷のなはな会会長の佐藤直義先生(昭31・内科)が病後のため欠席なので、代わって高野俊男先生(昭24・眼科)の歓迎のご挨拶のあと、物故された木村政之先生(昭14・外科)、高野典先生(昭15・内科)、丸山徹男先生(賛助・昭40新大・外科)の3名の先生方に黙祷を捧げた。次いで支部長水間正冬先生(昭17卒・内科)が議長となり、



平成8年度 千葉大学のな同窓会埼玉支部総会

会務・会計報告いづれも承認された。なお小畑親先生(専昭23・小児科)が勲五

等双光旭日章を受賞されたので、お祝いを差し上げた。続いて講演会に移り、ま

ず税所先生が「胃癌の診断と治療―われわれの戦略と具体的方策」と題し講演されたが、ふだん我々が縁遠くなっている最先端の現状を分かりやすく話され、目が覚めるようなインパクトを与えられた。その後新美先生の「最近の学内事情」のお話では、懐かしいのはな山の情景が眼前に彷彿とし、懐

第38回

東医体冬期大会報告

平成7年度に千葉大学医学部が主管した東医体冬期大会に係わる一連の事業が昨年11月中旬に日本大学医学部(第39回大会主管代表校)で開催された定例の評議委員会、理事会をもって無事終了しました。

本大会をスムーズに運営できたのも、るのはな同窓会会員を始め多くの皆様からの絶大なるご支援の賜と感謝申し上げます。の

本大会での競技成績については既に第111号で運営委員長の小松幹一郎君、評議員長の照井慶太郎君により報告されているので割愛しますが、大きな事故、怪我

旧の思いと同時に、発展して行く母校の姿が交錯し、しばし複雑な感興に浸った。記念写真の撮影後懇親会に移ったが、今年地元熊谷市から埼玉県医師会会長になられた山崎寛一郎先生(慶大)と地元医師会会長山崎望人先生(慈大)が表敬訪問ということで出席された。埼玉県医師会の重要ポストにはのなはな会会員が案外大勢活躍されているので、話は盛り上がり大層にぎやかな懇親会となった。

来年は大宮市で松山迪也先生(昭35卒・外科)が幹事長で開催されることになり、再会を約して閉会した。(冠木徹彦(昭40卒))

運営委員会を構成した学生達は手弁当でことにあたり、無駄な出費を抑える努力をしました。援助金の一部は東医体運営委員会決算の赤字補填と、実際に競技を運営したラグビー部、スキー部の赤字補填に使われましたが、300万円が残金として残りました。残金のはな同窓会にて保管していただき、平成10年に再び千葉大学医学部が分担主管する第41回東医体での分担競技(硬式野球、弓道、卓球、ソフトテニス、ヨット、サッカー)の競技資金に当てたいと思ってお

ります。本大会のためにご援助いただいた同窓会の皆様と諸団体の関係者に改めて御礼を申し上げます。また、平成7年8月に菅平でのラグビー競技の開会式に出席下さった衛生学の能川教授、11月の冬期大会開会式に出席下さった小児外科の高橋教授、平成8年3月に菅平でのスキー競技の開会式に出席下さった呼吸器内科の栗山教授に感謝申し上げます。

最後に、授業日程などで3月中旬頃にしか競技日程が組めないスキー競技の開会式に出席しましたが、既に雪質も悪く、事故の発生だけが心配でした。今年の東医体ではラグビー競技で他大学の学生に痛ましい怪我が発生してしまいました。この報告を書いている今、大過なく終了した第38回東医体冬期大会を省みて、ただただ安堵感で一杯です。ありがとうございます。(第38回東医体理事長、第一生理学講座教授 中島祥夫)

出版案内

著者 塚本勉(昭28卒)
「歌集随筆選」
四六判二五二頁
東京都港区南青山一丁目
NHK文化センター発行
(電話)〇三(三四七九)二五一一

るのな同窓会

常任理事会議事録

日時 平成8年11月27日

16時〜17時30分

場所 千葉市ペリエ

出席者 井出会長、加納・渡

辺・近藤各副会長、萩原・

大藤各参与、笠川監事

他常任理事(敬称略) 平形

山上、茂又、貫洞、伊藤

高村、越川、長沢、香田

三枝、嶋田、増田、木内

福田、佐藤

議題 (説明担当理事)

一、叙勲者、昇任者の四金

会招待の件(近藤理事)

平成8年春秋の叙勲者、

医療功労賞受賞者、昇任

者合わせて46名を四金会

へ招待することに決定。

二、同窓会の中間決算につ

いて (佐藤理事)

10月31日現在の経理状況

報告があり、今年度は予

算補正を行わず、期末の

決算時に一括処理するこ

とが確認された。

三、会費自動振替の勧誘に

ついて (木内理事)

会費収納事務の効率化を

図るため、10年振りに会

費の自動振替手続きを会

員に呼び掛けることにな

り、具体的方法の検討を

事務局に一任することに

決定。

四、千葉大学50周年記念関

連の拠金について

(福田理事)

千葉大学全体としての50

周年記念事業の計画があ

り、同窓生への拠金依頼

の計画が進行しているこ

とについて理事会で討議

いくつかの問題点が指摘

された。

五、その他 平成9年度の

総会(東京るのな同窓

会担当)に於ける役員改選

の件につき提案(小杉理事)

があり討論の結果、

次回理事会で再度検

討することとした。

報告事項：概略以下の

件につき報告された。

一、改訂名簿：11月下

旬発行予定である。

(嶋田理事)

二、同窓会報：今回より

七五〇部印刷。乙

会員にも送付した。

(嶋田理事)

三、るのな同窓会賞

の選考基準につき、

多少の見直しを委員

会で検討中である旨

報告があった。

(嶋田理事)

四、島崎名誉教授より

同窓会へ多額の寄付

をいただいた。

(佐藤理事)

会員名簿 (1997) 訂正

- P.7 茂又真裕 (昭22) 常任理事
P.17,208 中野雅行 〒260 千葉市中央区春日2-1-3
P.29,34,39,113 萩原彌四郎 城西国際大学
P.35 金久保好男 〒264 千葉市若葉区西都賀5-4-5
電043-255-1765
P.64 中 恒一郎
P.80 平田(高世)幸平 〒460 愛知県春日井市瑞穂通6-22-3
電0568-84-6638
P.82 佐藤 譲 〒102 東京都千代田区二番町1-6番町マンション502
電03-3261-2646
P.106 佐藤順泰 出身校 成蹊
P.158 成瀬基次郎 〒343 埼玉県越谷市七左町1-205-4
P.183 上原 朗 出身校 医進・瓜生東一 出身校 医進
P.245 吉田勝哉 〒263 千葉市稲毛区小中台町596-664
電043-287-5376 放医研
P.271 清水 耕 〒260 千葉市中央区亀岡町3-1-201
電043-222-0987
P.291 石原 武 出身校 慶応義塾
P.296 満山大吉 〒247 神奈川県鎌倉市玉縄2-10 カーサM-A
電0467-43-5752
P.302 八木(楠淵)さやか 〒260 千葉市中央区葛城3-2-22
電043-227-2740 千葉大第二内科
P.329 谷合 厚 出身校 開成
P.330 古田多真美 〒266 千葉市緑区誉田町2-23-254-406
電043-293-1962
P.372 赤井(岩瀬)留美江 〒272 市川市南八幡4-7-9 ラ・パシフィックC501
電0473-76-0775
P.390 大野春江 〒305 茨城県つくば市竹園3-510-402
電0298-52-0726

五、会費納入状況：乙会員
を含め会費の収納はほぼ
順調。(木内理事)

六、同窓会顕彰規定案：次
回理事会に規定案を提案
する予定。(増田理事)

七、るのな分館の新宮完
成について(嶋田理事)

なお、理事会に引き続き、同
所にて、四金会が行われた。

招待者を含め出席多数で会
場が手狭になる盛況であっ

た。三枝理事、近藤副会長の
司会で、珍客も含め叙勲、受

賞、昇任の挨拶などを頂き、
和やかな交歓が行われた。

本年度は、Dr.Margareth
Reiko Kai、強 雅維
(チアン ヤウイ) 先生の
お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

「よんまる会
留学生奨学金」
について

本学の昭和40年卒の有志
が、卒業30周年を記念して
「よんまる会留学生奨学金」
を思い立った。さっそく寄
附を募りその醵金より、留
学生2名にそれぞれ月額6
万円の奨学金を支給するこ
とになった。

本年度は、Dr.Margareth
Reiko Kai、強 雅維
(チアン ヤウイ) 先生の
お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

M. R. Kaiはサンパウロ
(ブラジル)出身で、神経内
科にて誘発電位など電気神
経生理学の研究を行ってお
り、強 雅維先生は西安(中
国)出身で第一病理の大学
院生として血液病理学と分
子病理学を研究している。

ささやかではあるが、この
奨学金が本学で学ぶ留学生
に、少しでもお役に立てれ
ば幸いと思う。(山浦 晶)

本年度は、Dr.Margareth
Reiko Kai、強 雅維
(チアン ヤウイ) 先生の
お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

お二人に支給する。Dr.

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

四金会・常任理事会開催の
お知らせ
日時 平成9年2月26日(水)
常任理事会 午後4時〜
四金会 午後5時30分〜
場所 ペリエホール
(JR千葉駅ビル5階)

人事異動